

宮城県の景況判断

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している。

概況

生産は概ね横ばい圏内で推移している。需要面の動きをみると、公共投資は震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している。住宅投資は、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。雇用情勢は総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている。

今月のポイント

海外情勢を背景とした国内経済の変調が騒がれていますが、県内景気は仙台圏での住宅投資や沿岸部での土木関連の公共投資が依然として活発で、サービス業での事業拡大が人手不足に拍車をかけるなど雇用・所得環境も改善を続けており、足元では目立った減速の動きはみられていません。今後、需給調整の動きがどのタイミングで出てくるのか、その時期と程度が注目されます。

(参考) 県内景況判断の推移

	2019年2月	3月	4月
総括判断	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)
生産	全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している	全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している	概ね横ばい圏内で推移している※
個人消費	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている
住宅投資	建替需要の反動などにより基調としては減少している	建替需要の反動などにより基調としては減少している	建替需要の反動などにより基調としては減少している
公共投資	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している
雇用情勢	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2018年4~6月) 一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては持ち直しの動きとなっている	(7~9月) 持ち直しの動きが鈍化している	(10~12月) 持ち直しの動きが鈍化している

※「平成27年基準 県鉱工業生産指数改定」に伴う基調判断の改定

注) 下線は前月(回)からの変更箇所

宮城県の経済情勢に関するより詳細な情報については、機関誌「FLAG」および「77R&C会員情報サイト」にて、ご覧になることができます。